

会長挨拶

鳩 貝 太 郎

本日の第 24 回全国学校飼育動物研究大会にご参加いただきありがとうございます。本研究会の会長の鳩貝と申します。

今回の研究大会は、東京大学弥生講堂で皆様にお集まりいただいて開催することで準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大がますます進行し一向に収まらない状況からやむを得ずオンライン開催に変更させていただきました。

新型コロナウイルス感染症が広がり 3 年間も発表者と参加者が一堂に会して意見交換し、交流することができないのは残念なことです。しかし、オンライン開催により当日会場までお出でいただけない方々にも参加いただけます。さらには「見逃し配信」も行うことで、当日は都合により参加できない方々に自分の都合の良い時に見ていただくことができます。今回の研究大会で全国の多くの皆様と学校での動物飼育活動の教育的意義やその充実のための方策を考えることができることを喜びたいと思います。

さて、今年の研究大会では、メインテーマを「学校飼育動物への関心を高め、理解を深めるために」とし、サブテーマに「変わりゆく学校での飼育活動」という文言を加えました。

学校での動物飼育は、2004 年(平成 16 年)の鳥インフルエンザの発生以後は飼育舎でのニワトリなどの飼育は激減しました。それと共に獣医師さんや地域の方々の支援が無

いところなどではウサギの飼育も減少しました。

近年は、若い教員の動物飼育に関する経験不足や理解不足に加えて、教員の働き方改革の動き、また市民の犬や猫などの小動物に対する愛護意識の変化、更には夏の猛暑や冬の厳しい寒さなどの気候変動や災害の多発なども飼育活動に影響を及ぼしていると思われます。

私どもは、これまでの様々な飼育活動の実践や研究から学校や幼稚園などで子どもたちが飼育活動を行うことの教育的な効果について明らかにしてきました。

そこで、今回の研究大会では先ほど申し上げたようなテーマを掲げ、口頭発表とその後でのシンポジウムを通して時代の変化に対応したより良い動物飼育活動の在り方を皆さんと共に考えていきたいと思ひます。

最後になりますが、文部科学省、東京都教育委員会、日本獣医師会、東京都獣医師会、日本小動物獣医師会や多くの教育研究団体の後援をいただき本研究大会が開催できまことに感謝申し上げます。

では、長時間の研究大会になりますが、今回も実り多い研究大会にしたいと考えております。皆様のご協力をよろしく願ひいたします。

(本会会長／国立教育政策研究所名誉所員
／東京都立大学客員教授)